

関係者の皆様へ

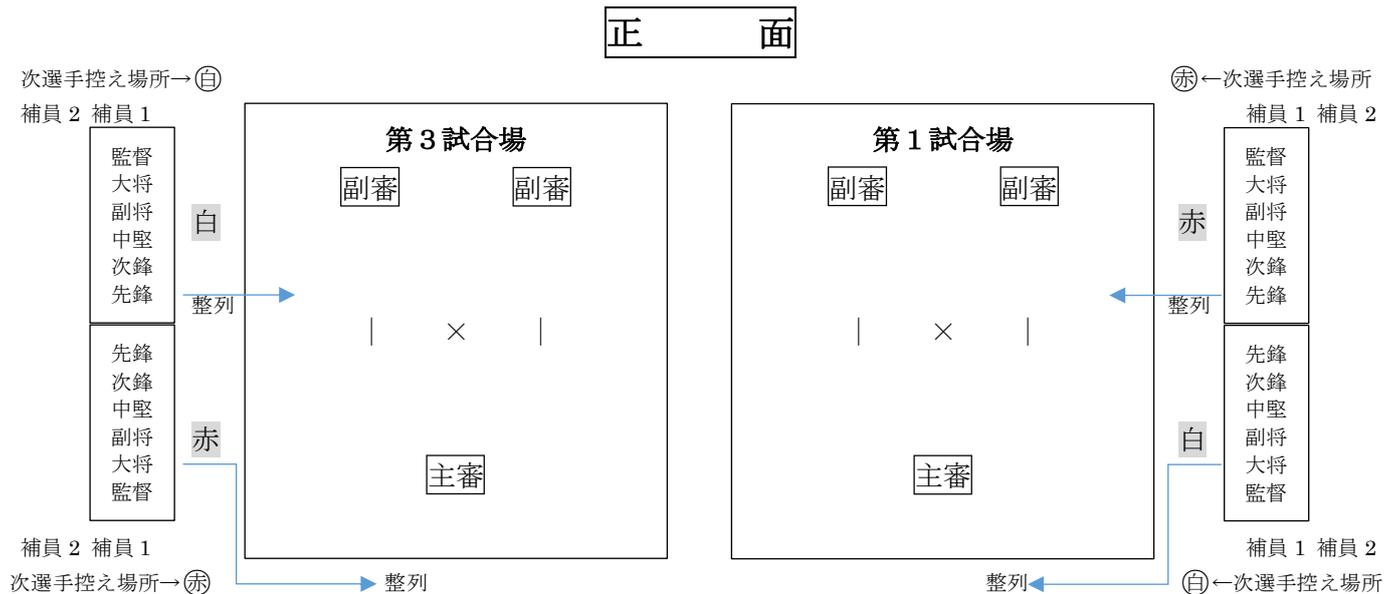
奈良県中体連剣道専門部

大会時の選手の入退場・マナー等について

〈団体戦の場合〉

1. 試合前

- (1) 団体戦は、監督1名、選手5名、補欠2名が選手席に入ることが出来る。
- (2) 選手は、二試合前には試合場付近で待機をすること。
- (3) 選手は、竹刀袋を肩からかけずに、手に持って入退場を行うこと。
- (4) 入退場はチームが揃った状態で行うのが望ましい。
- (5) 試合場には、竹刀・竹刀袋を持参し竹刀スタンドは持ち込まない。
- (6) 試合者は、審判員が移動して所定の位置に着くまでは、試合場に入らない。
- (7) 始礼、終礼(試合場内で整列しての相互の礼)において、始礼では先鋒と次鋒が、終礼では大将が面と小手をつけ、竹刀を持って整列する。
- (8) 正面への礼は、各試合場の第1試合の開始時と決勝戦の開始時と終了時に行うものとする。
- (9) 始礼の前後や選手交替時における余計な所作は行わない。
 ※ 円陣を組んでの発声やパフォーマンス・胴づき・握手等
- (10) 選手席の整列は、下記の要領で行う。



2. 入場時

- (1) 初めから選手席に入ることが出来る場合
 - ① 全員で畳(ない場合はライン等選手席がわかる場所：以下同様)の後ろで面小手を持ったまま監督の指示で一礼し、着座して先鋒・次鋒は畳の上で座って面をつける。
 - ② 始礼の後、選手席前で再度一礼する必要はない。

(2) 前の試合の後に選手席に入る場合

*各試合の始礼は、試合ごとに行う。

*審判員(3名)の退場と同時に、次の審判員(3名)の入場を行い、所定の位置につく。

*チーム全員で選手席に入る前の一礼は行わない。

- ①先鋒・次鋒は、あらかじめ別の場所で面をつけておく。
- ②竹刀・竹刀袋と他の選手の面小手は、選手席の後ろに置いてから、すぐに試合場で始礼を行う。
- ③先鋒はそのまま残り試合場内の立礼の位置へ、次鋒は控え場所に行く。
- ④始礼が終了後、直ちに監督が選手席に着座したら試合を開始する。(監督は選手を待たない)
- ⑤中堅以降の選手は、畳の後ろから面小手と竹刀・竹刀袋を畳の上に移動してから選手席に座る。
(先鋒・次鋒の竹刀袋の移動も行う)

3. 試合開始・終了時

・チームが相互の礼にあわせて、監督、補員も礼をして、監督同士で改めて礼をする。

4. 退場時

- ・大将戦終了後すぐに大将以外は面の中に小手を入れて、すぐに移動できる準備をしておく。
- ・終礼の後、素早く選手席に戻り、全員整列した後、畳の後ろで監督の指示で一礼をして選手席を出る。

5. 試合の中で

- (1) 先鋒戦及び最後の試合者の対戦の場合、監督、選手ともに正座する。個人戦における監督も同じとする。
- (2) 蹲踞の「始め」と「終わり」を正確・丁寧に行い、「始め」の宣告で完全に立ち上がって開始する。
- (3) 応援は拍手のみで行う。声援、サインは禁止とする。
- (4) 次の試合者以外は、試合場から立たない。面をつけたまま座って待つ。
- (5) 相手の反則に拍手はしない。
- (6) 競技中(特に「やめ」や「合議」の際)に指示・指導は行わない。
- (7) 試合場へのストップウォッチや腕時計など、時間が計測できるものの持ち込みは禁止する。
(監督の腕時計等も上記に準ずる)
- (8) 試合中、選手を監督の前に座らせての指導は行わないようにする。

〈個人戦の場合〉団体戦に準ずる

◎ 選手席への入退場は監督の指示で一礼してから行う。

〈試合場における約束事〉

(1) 大会会場で

◎ 選手控え室(更衣室)がある場合

- ①防具袋は、各チームでまとめて整頓しておく。防具袋は必ずふたをして中身が見えない状態にする。
また、更衣室を一般の方も使用する場合は必ず荷物を置きっ放しにせず、応援席に移動する。
- ②靴は各自が靴袋を用意して防具袋の中にするか、チームで靴袋を用意しておく。
靴を控え室や玄関、通路に丸出しのまま放置しない。

◎ 応援席で着替える場合

- ①応援席の最前列は、保護者の観戦や応援用に空けておき使用しないのが望ましい。
- ②着替えた服は防具袋に入れて、イスの下にチームごとでまとめて置くのが望ましい。
- ③応戦席後ろの通路や空きスペースには、荷物を置かない。シートを曳いて場所取りをしない。

(2) 試合会場で

- ①試合会場には、監督・選手・役員・補助員以外は立ち入らないこと。
- ②チームでの練習は定められた場所で行い、必ず時間内に終了し、試合場の板目にあわせて全体が同じ方向を向いて行う。
- ③練習会場に竹刀や防具を置いて場所取りをしない。お互いに譲り合って安全に気を付ける。
- ④練習後の防具、竹刀等はチームで整頓してまとめておく。
- ⑤連絡等の放送が入ったらアップとやめて、その場に着座をして指示を聞く。
- ⑥大会試合場では、速やかに選手席に入り対戦チームが整列できるようにする。試合が終われば次のチームのために選手席を譲る。
- ⑦試合中は会場内での一切の練習を禁止する。また、他の人たちの迷惑となる通路等での素振りなども禁止とする。
- ⑧各大会において、練習に参加できる人数は、団体戦については、選手・補員を含む7名までとする。個人戦については、各校から大会に参加している選手人数で行うが、参加選手が1名の場合は、他の同性1名を練習相手としての参加を認める。また、指導者も部員数調べに登録されている顧問のみ参加を認める。
- ⑨会場内への部旗、応援旗、千羽鶴等の持ち込みは禁止とする。

(3) 審判員として

- ①審判席では、足を組んだり腕組みをしたり大きな声で談笑はしない。団扇や扇子であおがない。
- ②審判席からの応援や指導はしない。
- ③次の試合にあたっている場合は、前もって着席しておく。選手を待たせない。
団体戦は前の試合の中堅までに着席する。
- ④試合開始は、始礼の後すぐに監督が着席してから始める。(主審がしっかり確認する)
- ⑤様々な審判講習会等に積極的に参加をして、自己の研鑽につとめる。